

東京工業高等専門学校		開講年度	令和05年度（2023年度）		授業科目	エンジニアのための人文科学 （2022年度以降入学生用科目）	
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械情報システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	土屋陽介『僕らの世界を作り変える哲学の授業』						
担当教員	村瀬 智之						
到達目標							
1. 授業で扱われた内容について、テキストでの記述や受講者同士の議論を基に、自らの考えを十分に深めることができる。 2. 議論の中で自らの主張を丁寧かつ論理的に伝え、積極的に議論に参加することができる。 3. 議論や対話をオーガナイズし、他者とともに考えを深める手法への理解を十分に深め、その実践を楽しむことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	授業で扱われた内容について、テキストでの記述や受講者同士の議論を基に、自らの考えを十分に深めることができる。		授業で扱われた内容について、テキストでの記述や受講者同士の議論を基に、考えることができる。		授業で扱われた内容について、考える経験を積むことができる。		
評価項目2	授業で扱われた内容について、テキストでの記述や受講者同士の議論を基にしているが、自分で考えることができない。		議論や対話をオーガナイズし、他者とともに考えを深める手法への理解を十分に深め、その実践を楽しむことができる。		議論や対話をオーガナイズし、他者とともに考えを深める手法を理解し、それを実践することができる。		
評価項目3	他者とともに考えを深める手法に触れ、それを実践することができる。		議論や対話をオーガナイズし、他者とともに考えを深める手法への理解が不十分である。		議論の中で自らの主張を丁寧かつ論理的に伝え、積極的に議論に参加することができる。		
	議論の中で自らの主張を伝え、議論に参加することができる。		議論に参加することができる。		議論の中で自らの主張を伝えたり、議論に参加することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、これまでに受講生が受けてきた「授業」を反省的に捉え直し、より一層の理解を進めるとともに、教室の中で他者とともに考えを深めるための対話手法である「哲学対話」の手法の理解と実践を行う。						
授業の進め方・方法	授業では、受講者同士で議論するとともに、哲学対話のファシリテーション技法を学び、その実践を行う。また、本授業は学修単位であるため、事前事後学習として、予習復習が必要となる（授業の中で内容は指示する）。						
注意点	参加型の授業であるため、対話に積極的に参加することが求められる。積極的な参加とは、発言することだけを意味するのではなく、しっかりと聴くことも含まれる。そして、何よりも他の人の発言を受けて、自らが考えを深めることがもっとも重要な「積極的参加」の意味である。 以上のような理由により、評価については、授業に参加したことによって得られる点が多く含まれているため、授業に際して、出席や授業態度、議論への参加には特に注意をすること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション 哲学的に議論するとはいかなることか		哲学的議論をするとはいかなることかを知り、実際に参加すること。		
		2週	哲学対話とは何か？ 1		哲学対話について自分たちの経験を振り返りながら、理論的な理解を深める。		
		3週	哲学対話とは何か？ 2		哲学対話について自分たちの経験を振り返りながら、理論的な理解を深める。		
		4週	哲学対話とは何か 3		哲学対話について自分たちの経験を振り返りながら、理論的な理解を深める。		
		5週	哲学対話に参加しよう 1		哲学対話に参加しながら、現代哲学の話題について受講者同士で考えを深めるとともに、哲学対話を楽しむ。		
		6週	哲学対話に参加しよう 2		哲学対話に参加しながら、現代哲学の話題について受講者同士で考えを深めるとともに、哲学対話を楽しむ。		
		7週	哲学対話に参加しよう 3		哲学対話に参加しながら、現代哲学の話題について受講者同士で考えを深めるとともに、哲学対話を楽しむ。		
		8週	哲学対話に参加しよう 4		哲学対話に参加しながら、現代哲学の話題について受講者同士で考えを深めるとともに、哲学対話を楽しむ。		
	2ndQ	9週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 1		哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。		
		10週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 2		哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。		

		11週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 3	哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。
		12週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 4	哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。
		13週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 5	哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。
		14週	哲学対話をオーガナイズしてみよう 6	哲学対話をオーガナイズし、自らが率先して対話を進めていくための準備を行い、実際に実践し、それを反省しながら、よりよい実践に向けて改善を行っていく。
		15週	半期の授業の振り返り	半期をふりかえり、自ら、および、学習者の集団としての行為を反省的に思考すること。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	レポート	発表・実践	授業への参加・参加の質				合計
総合評価割合	40	40	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	20	10	0	0	0	30
専門的能力	20	20	10	0	0	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20